

フィデューシャリー・デューティー —顧客本位の業務運営とは何か

森本紀行 (HC アセットマネジメント株式会社 代表取締役社長) / 著
四六判・並製 208 頁 定価：本体 1,500 円＋税

元金融庁長官 五味廣文氏 推薦！

- ◆金融庁が確立と定着を目指すフィデューシャリー・デューティーはすべての金融機関のプリンシプル（行動原則）。その真意、何を実践すべきか等を詳解。
- ◆日本で最初に「フィデューシャリー宣言」を行った HC アセットマネジメントの森本社長が、フィデューシャリー・デューティーの意義、これまでの経緯、具体的な取り組み方、今後の課題等について簡潔にまとめた書。



推薦の言葉 より

本書では、長年にわたり投資の現場で実績をあげている著者が、顧客本位の業務運営の神髄を語っている。フィデューシャリー・デューティーの理念と実践が、金融市場における日々の豊富な経験を踏まえて、現実に即して具体的にわかりやすく解説されている。

フィデューシャリー・デューティーというと、何か取っつきにくい高度な規制用語のように聞こえるが、本書を読めば、それはまさに日々の業務と有機的に結合している羅針盤のようなものであることがわかる。難しい局面でも正しい方向を見失わずに自信を持って仕事ができるよう、そしてそれが日本経済、投資家、金融業界自身の発展に貢献することとなるよう、本書を金融市場に関わる皆さんに自信を持ってお勧めしたい。

元金融庁長官・西村あさひ法律事務所 顧問 五味 廣文



ビジネス教育出版社
BUSINESS KYOIKU SHUPPANSHA

〒102-0074 東京都千代田区九段南 4-7-13
TEL:03-3221-5365 FAX:03-3222-7878
E-mail:info@bks.co.jp URL:http://www.bks.co.jp

第1章 なぜ、フィデューシャリー・デューティーが必要なのか

ルール遵守と「顧客の Best interest」
 ルール遵守にも限界がある？
 自己の利益を図らないことと合理的報酬
 第三者の利益を図らないことと系列重視
 忠実義務とフィデューシャリー・デューティー
 フィデューシャリー・デューティーとベストを尽くす義務
 法律上保護される信認関係
 フィデューシャリー・デューティーとプロフェッショナルリズム
 フィデューシャリー・デューティーと経営の独立

第2章 フィデューシャリー宣言を公表した金融機関各社の動向

フィデューシャリー宣言とは
 「フィデューシャリー宣言」の3要素
 偽りの「フィデューシャリー宣言」の排除
 HCアセットマネジメントの「フィデューシャリー宣言」
 HCアセットマネジメントとしての特色、こだわり
 フィデューシャリー宣言の遵守状況の振り返り
 金融庁の規制強化の一環ではない
 三井住友信託銀行の「行動規範（バリュー）」
 その他の投資運用業者の例
 フィデューシャリー宣言を公表した各社
 みずほのフィデューシャリー・デューティーに関する取組方針
 フィデューシャリー・デューティーの履行強制力
 自主的な取組みの利益
 みずほの資産運用改革、さらなる徹底を！
 みずほの取組方針で不十分な点
 その後公表された宣言はどうか

第3章 金融庁の歴史的な方針転換

フィデューシャリー・デューティーの長く広い射程
 規制から自律的改革支援への転換
 フィデューシャリー・デューティーは金融の全分野に適用
 フィデューシャリー・デューティーを規制と考える金融機関に未来はない
 フィデューシャリー・デューティーを厳格な規範にする仕組み

【著者紹介】森本紀行（もりもと・のりゆき）

東京大学文学部哲学科卒業。1981年三井生命保険入社。1990年当時のワイアットへ入社し、日本初の企業年金基金等の機関投資家向け投資コンサルティング事業を手がける。2002年、HCアセットマネジメントを設立。全世界の投資機会を発掘し、専門家に運用委託するという、新しいタイプの資産運用事業を展開している。同社サイトにて自らが執筆するコラム「森本紀行はこう見る」でも活躍中。

第4章 テーマ別に見た顧客の利益を最優先する取組み

① 投資信託（資産運用関連業務）

投資信託は本当の信託なのか
 「金融・資本市場活性化に向けての提言」における投資信託
 日本の投資信託の構造の特徴
 投資信託の販売会社のフィデューシャリー・デューティー
 金融庁によるモニタリング

② 確定拠出年金等（資産運用・管理業務）

受託者としての資産運用の担い手
 企業年金基金・投資運用業者等の責任
 資産運用の担い手として、何をなすべきか
 資産運用の担い手自身の統治改革

③ 保険販売・融資業務

④ 信託業と投資運用業の責任の境界線

責任の明確な線引き

第5章 さらに深くフィデューシャリー・デューティーを知るために

プリンシプルとしてのフィデューシャリー・デューティー
 理念としてのフィデューシャリー・デューティー
 トラスト（信託）の本旨
 信託の個性
 受託者が負うべき義務と、委託者をも拘束する独立性
 フィデューシャリー、あるいは信じて託すること
 信認関係という考え方
 委託者と受益者
 信託の受託者の忠実義務
 忠実義務と報酬
 利益相反取引
 競合行為
 外部専門家の導入
 専らに受益者の利益のために
 競業を禁じる契約の目的
 高度な職業倫理の育成

第6章 これからの課題と展望

「フィデューシャリー宣言」の普及拡大
 「フィデューシャリー宣言」の高度化
 フィデューシャリー・デューティーは三つの観点から検討
 「コミットメント宣言」と情報の対称性
 地域金融機関の「コミットメント宣言」
 顧客密着の事業創造
 年金基金の「フィデューシャリー宣言」
 2016事務年度金融行政方針
 森金融庁長官の熱い思いに応える

事業性評価融資－最強の貸出増強策

中村 中／著

A5判・248頁 定価：本体2,500円＋税

ローカルベンチマーク

～地域金融機関に求められる連携と対話

中村 中／著

A5判・160頁 定価：本体2,000円＋税